

+第211回 「元気に百歳」クラブ「道草」新句会開催

兼題の提示を受けて、新しい句づくりに取り組んでいたと思ったら、早くも7月8日「新橋ばる一ん集合の日」を迎えました。その7月8日、安倍元首相が参議院議員選挙の応援演説中に凶弾に倒れるという不祥事が起こりました。こんな暴挙は断じて許されるものでなく、安倍元首相の無念な気持を察するばかりです。事件の詳細は、毎日の新聞やテレビに報じられるところに譲るとして、今はただただ、亡き安倍元首相に哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

2回目を迎えた新しい形の句会です。句会に参加した方々は下述の通りです。投句にのみ参加された方は15名、ただ板倉歌多音さんは、今回、投句はなさらず、選句のみに参加して下さいました。そして「新橋ばる一ん」202号室に集まりましたのは下述の8名の方々です。

◎ 投句に参加した方々。

芦川創風さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、木村栄女さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然（15名）
（板倉歌多音さんは、選句のみに参加されました）

◎ 7月8日（金）「新橋ばる一ん」の句会に参加された方々

芦川創風さん、奥田和感さん、手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原晶如さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然（8名）

選句発表会としての新句会も、進行中には意見提示のタイミング、意見交換にまだまだぎくしゃくした感じがあり、改善すべきところが随所にあると思われませんが、各自の選句発表のスタイルは、徐々に形になってまいりました。特に選んだ推薦句を読み上げることは、その大切さを理解出来たのではないのでしょうか。いつもの通り、皆さんに選句された天賞句、最多得票賞（☆印）句は、下述のとおりです。どうぞご高覧下さい。

もう一点、皆さんが披講した推薦句とは別に、提示された「ひと言」は、ご自身の俳句に対する疑問の確認も含めまして、とても有効な「学び」につながります。今後も傘吉さんをお願いして、「ひと言」欄のフォーマットの改善に努めましょう。

兼題1「短夜」

◎『短夜のきれぎれの夢紡ぎつつ』	荻女	天1☆7
◎『解のなき思案の酒や明易し』	白然	天1☆7
◎『短夜に夢や往にし日彷徨ひて』	傘吉	天1
◎『明早し窓辺のサッシ手に熱し』	月草	天1

兼題2「金魚」

◎『金ちやんと弟の呼ぶくず金魚』	荻女	天2
◎『ただいまの声に金魚は尾をほどき』	晶如	天1☆5
◎『きんぎよの声追い京橋を渡りし日』	栄女	天1☆5
◎『駄駄こねた金魚すくえぬ幼き日』	創風	天1☆5
◎『ただいまとまずは金魚に声をかけ』	多佳	天1
◎『紙破れ逃した金魚ここにあり』	和感	天1

兼題3「当季雑詠＝夏＝」

◎『コロナ禍の三年ぶりのビアホール』	和感	天2
--------------------	----	----

◎『大西日太宰も浴びし跨線橋』	晶如	天1
◎『潮風の門に茅の輪や鞆の浦』	荻女	天1
◎『山開き終え静かなり河童橋』	憧岳	天1
◎『甚平の似合はぬ人の背の高さ』	多佳	☆9

兼題1では、荻女さんの句「短夜のきれぎれの夢紡ぎつつ」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。文字通り作者の「短夜に見るきれぎれの夢」を、ふと覚めたその短夜の中で、つなぎ合わせているということでしょうか。このあたりに読者の共感が集まりました。次に白然の句「解のなき思案の酒や明易し」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。現役時代の話ですが、今から思えば虚しいことです。滑稽でもあります。次に傘吉さんの句「短夜に夢や往にし日彷徨ひて」が、天賞一つを獲得しました。こう言っでは、誠に僭越ではありますが、傘吉さんも又、嘗て若き日の彷徨の数々を思い起こされての一句と拝察致しました。もう一句、月草さんの句「明早し窓辺のサッシ手に熱し」が、天賞一つを獲得しました。窓辺のサッシの熱さの実感を、下五で「手に熱し」と表現されたところが、読者の共感を得たのだと思われます。天賞推挙のコメントに「日常の一瞬を簡潔に表現した佳句」とあります。

兼題2では、これまた荻女さんの句「金ちゃんと弟の呼ぶくず金魚」が、天賞二つを獲得しました。兼題1に続き荻女さん、天賞獲得で好調です。弟さんが数居る鉢の金魚の一尾を「金ちゃん」と呼んだ時代、きっと幼いころの思い出ではないでしょうか。しかもその金魚が「くず金魚」であったとは……。弟さんの優しい気持ちがもろに伺えて、心温かいですね。次に晶如さんの句「ただいまの声に金魚は尾をほどき」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。この句もまた金魚の堅固なハートを表現したものと言えます。勝手に留守番という大役を背負った金魚、家人の帰宅にホッと緊張感をほどきました。その表現が下五の「尾をほどき」です。素晴らしい句だと思います。

次に栄女さんの句「きんぎよの声追い京橋を渡りし日」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。異論は多々あるかと思いますが、上五の「きんぎよ」は金魚売りの声ですから、字余りになっても「きんぎよう」或いは「きんぎよー」にし、中七の「声追い」は「声追ひ」に、そして「京橋」は、「きやうはし」か、「京はし」になさったらと思いました。子供のころの胸どきどきとする冒険が感じられ、思い起こして胸がキュンとなる句です。もう一句、創風さんの句「駄駄こねた金魚すくえぬ幼き日」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。天賞推挙のコメントに、ご自身の幼き日と照らし合わせて、同じ体験をなされたとのコメントがありましたが、作者には悔しい気持ちが今も鮮明なのでしょう。季語「金魚」から想起されるものは、やはり幼き日の数々が多くなりませぬ。

次に多佳さんの句です。「ただいまとまずは金魚に声をかけ」が、天賞一つを獲得しました。この句は玄関に置かれた金魚鉢を、想像された方が多かったようです。帰宅するとまずは金魚に挨拶をする。家族構成まで想像してしまう和やかさに富む句ですね。笑顔が飛び交うとの評もありました。もう一句、和感さんの句「紙破れ逃した金魚ここにあり」が、天賞一つを獲得しました。金魚掬いの紙が破れたということは、掬えなかった訳ですから、入手できなかったのではないのでしょうか。その金魚が手元に居るということは、何かのご褒美で入手できたということ。物語の展開が想像出来て魅力のある句になりました。

席題3では、和感さんの句「コロナ禍の三年ぶりのビアホール」が、天賞二つを獲得しました。和感さん快調です。私たちはコロナ禍のため、これまで長く酒席を持つことが出来ませんでした。俳句仲間では二次会と称して、これまでは句会のオフタイムに酒席を持ち、ご参加の皆さんと懇談をする楽しみを持っていました。この度の和感さんの句、中七、

下五の「三年ぶりのピアホール」からは、和感さんの喜びの声が聞こえてくるように思います。次に晶如さんの句「大西日太宰も浴びし跨線橋」が、高得票と天賞一つを獲得しました。この句は西日が季語で、午後のおだるような熱さを表現したものです。太宰治と跨線橋との関係は、三鷹駅の跨線橋から眺める西日を、小説に採り上げたところにあったのでしょうか。太宰治の侘しさと午後のおだるの熱さを、さらりと漂わせた句になっているように思います。

次に荻女さんの句「潮風の門に茅の輪や鞆の浦」が、天賞一つを獲得しました。ここでも荻女さんの句は、最多得票賞には届きませんでした。多くの票を獲得しての天賞でした。小生に鞆の浦旅行の経験はありませんので、多くを語ることはできませんが、海岸に近いところに茅の輪があり、まさに潮風の通り抜ける門の役割を果たしているのでしょうか。時あたかも7月1日、大祓の神事として取り上げる日です。そんなところも読者に想像させたのかも知れません。次に憧岳さんの句「山開き終え静かなり河童橋」が、天賞一つを獲得しました。上高地河童橋を中心とした「開山祭」は4月27日と聞きます。当季雑詠が「夏」である以上、山開きを終えて静かな河童橋を詠んだ句ですから、問題は少ないと思われませんが、如何でしょうか。

もう一句、天賞にはなりませんでしたが、多佳さんの句「甚平の似合はぬ人の背の高さ」が、最多得票賞（☆印）を獲得しました。男の甚平姿と背の高さの関係、これも話題になるところですね。

今回の新句会は8月5日（金）午後1時半開講と決まりました。そのため兼題の提示日は、7月25日（月）です。そうして、投句締切日が7月29日（金）、さらに投句一覧表の作成日は7月31日（日）になりました。われら高齢者のウイークポイントは、忘れることです。どうぞ日時を忘れないように、間違わないように、楽しい俳句サロン「道草」を続けましょう。

白然記